

わかやま 県議会 だより No.23

平成26年[2014]
2月9日発行(年4回発行)



わかやま
ing
和歌山の現在進行形

熊野古道 中辺路(田辺市)

世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録10周年
平成26年7月7日に、世界遺産登録10周年を迎えることを契機
に、県では、地域やJRグループと一体となり、大型観光キャン
ペーン「和歌山アスティネーションキャンペーン」を実施します。

12月定例会号

主な記事

2~3面 平成25年12月定例会の概要

4面 議会活動の紹介
県議会からのお知らせ

議員 提案条例

和歌山県中小企業振興条例 制定

県を挙げて中小企業を元気に!!

県民の皆さんへ

中小企業振興に係る条例案検討会

座長 尾崎 要二



皆さん、和歌山県にはど
れくらいの数の中小企業があ
るかご存じでしょうか。統計
によると、本県には約4万
社の中小企業があり、これ
は、県内企業の99.9%を占
めます。このことからわかるように、県経済の屋台骨
を支えているのは他ならぬ中小企業であり、本県はまさ
に中小企業立県なのです。

しかし、近年では、国際競争の激化や人口減少社会の
到来により、県内中小企業は非常に厳しい経営環境に
置かれており、景気回復の兆しが見えつつあると言われ
ている昨今においても、本県の経済は閉塞感をぬぐい切
れずにいます。

このような状況を打ち破るべく、議員提案により制定
されたのが「和歌山県中小企業振興条例」です。

この条例は、県を挙げて小規模事業者をはじめとする
中小企業を振興することにより県経済を発展させ、さ
らには県民生活を向上させることを目的としています。
これはつまり、中小企業を支え育てることが、県民一人
ひとりの暮らしを豊かにすることにつながるということ
を意味しています。

まずは、身近な中小企業がどんな会社なのか、関心を
持つてみてください。そして、その関心を地元商店街の
利用や県産品の購入、県内産のお酒やジュースでの乾杯
などの具体的な行動につなげていくことで、中小企業は
元気になります。

県民の皆さんには、中小企業が県経済、そしてわれわ
れ県民の生活を支える重要な存在であるということをも十
分にご理解いただき、和歌山県の未来を担う中小企業
の振興とともに、取り組んでいただきたいと思えます。

条例のあらまし

- 県を挙げて中小企業を振興することで、県経済を
持続的に発展させ、県民の暮らしを豊かにするこ
とを目的としています。
- オール和歌山での取組を推進するため、県や県議
会をはじめ、県民、中小企業団体、大企業、金融
機関、大学等の研究機関、そして中小企業自身の
8つの主体の責務や役割等を明記しました。
- 施策の基本方針として、「製品開発・販路開拓の支
援」「資金供給の円滑化」など11項目を定め、県が講
ずべき施策の方向性を明らかにしています。
- 県の中小企業振興施策とその実施状況を毎年公表
すること、施策の実施状況等については毎年速や
かに議会に報告することを規定し、条例に実効性
を持たせています。



条例のイメージ

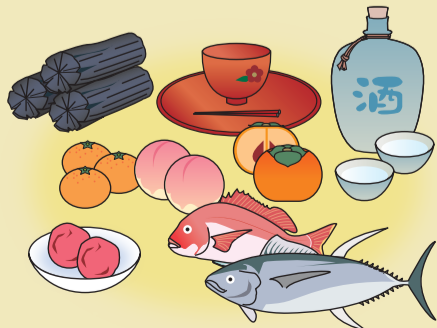
くわしくはWEBで [和歌山県議会](#)

Pick Up
県産品を使い
ましょう!

この条例では、県の責務として「中小企業者が供給する紀
州の地酒等の県産品の利活用に率先して取り組むこと」を盛り
込んでいます。

県内産のものを県内で積極的に消費すること(地産地消の
推進)で、故郷わかやまへの愛着が深まるとともに、それらの
県産品を生産・販売している中小企業が元気になり、県経済
が活性化します。

皆さんも、ぜひ県産品の消費拡大にご協力ください。



12月定例会の概要

12月3日～12月19日までの17日間

会期中の主な動き

特別委員会の開催

- 決算特別委員会 12/ 3
- 東南海・南海地震等対策特別委員会 12/13

一般質問議員 15人

12月10日(火)	12月11日(水)	12月12日(木)	12月13日(金)
服部 一	大沢 広太郎	長坂 隆司	谷口 和樹
坂本 登	奥村 規子	雑賀 光夫	鈴木 太雄
多田 純一	片桐 章浩	立谷 誠一	山下 直也
高田 由一	中村 裕一	平木 哲朗	

議案等の議決結果

項目	件数	件名	結果
予算案件(知事提出)	1件	平成25年度和歌山県一般会計補正予算	可決
条例案件(議員提出)	1件	和歌山県中小企業振興条例	
条例案件(知事提出)	17件	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例 等	認定
決算案件(//)	2件	平成24年度和歌山県歳入歳出決算の認定について 等	可決
その他案件(//)	9件	平成25年度建設事業施行に伴う市町村負担金について 等	
意見書	10件	リニア中央新幹線東京一大阪間全線同時開業に関する意見書	可決
		農地転用許可の緩和を求める意見書	
		介護保険制度における新たな地域支援事業の導入に係る意見書	
		企業減税等から確実な賃金引上げを求める意見書	
		過労死防止基本法の制定を求める意見書	
		水痘等4ワクチンの定期予防接種化に関する意見書	
		燃料価格高騰に対する補助制度の創設を求める意見書	
		ウイルス性肝炎による肝硬変・肝がん患者に対する医療費助成制度の拡充を求める意見書	
		過疎対策の積極的推進を求める意見書	
		「高校無償化」への所得制限導入に反対し、「教育費無償化」の前進を求める意見書	否決

主な質問とこれに対する知事や関係当局の答弁は、次のとおりです。(要約)

交通

関空・紀淡・四国高速 交通インフラ整備構想

問 平成25年11月に東京で関空・紀淡・四国高速交通インフラの整備についてのシンポジウムが開催されたが、この構想の推進についてどう考えるのか。

答 紀淡海峡ルートをはじめとする高速交通インフラの整備が、西日本地域の発展に必要であり、ひいては第二国土軸の実現による日本全体の国土強靱化の観点からもぜひ必要です。本プロジェクトは、形ができていないものもあり、困難が予想されますが、和歌山のため、関西のため、日本のため、推進していきたいと考えています。

和歌山電鐵貴志川線への評価

問 様々な経営努力により純損失額は減少しているが、依然、赤字経営が続いている。10年間の補助期限が近づいているが、これまでの総合的な評価はどうか。

答 地域の鉄道だけにとどまらず、観光振興や地域活性化のためにも貴志川線の存続は大事であります。今年度の上半期は過去最高の利用人数となるなど、理解も大分進んではいますが、引き続き、沿線住民の皆さんによる「乗って残す」という行動が必要だと考えますので、さらなる利用促進を期待しています。

道路

国体に向けた道路整備

問 国体に向けて公共インフラの整備に全力を挙げているところであるが、宿泊客が集中する和歌山市や田辺・白浜での道路整備にどう取り組むのか。

答 和歌山市内では、都市計画道路の県担当部分について全力を挙げて国体までの整備に努めており、市の担当部分についてもおこなえないよう働きかけています。田辺・白浜地方では、現在、国道42号田鶴交差点の改良工事中で、白浜空港フラワールイン線についても国体までに最低限のところは整備するように取り組んでいます。

国道311号の事故多発地点対策

問 中辺路町栗栖川川内、上富田町下鮎川川内では、長年、事故が多発している。道路改良の経過と問題点、見直しはどうか。

答 栗栖川川内では、原之瀬橋付近で歩道整備とあわせた道路拡幅を実施しています。JRバス栗栖川駅付近では、地元の見も聞きながら歩道整備とあわせた道路拡幅を検討していきます。上富田町下鮎川川内の加茂橋付近では、減速標示等を行うことにより死者事故は半減していますが、急カーブで見通しが悪い現状を踏まえ、町や関係機関の見も聞きながら、線形改良を含めたさらなる交通安全対策の必要性を検討していきます。

サイクリングロードの整備

問 「みなとオアシス」認定に向けて動いている大阪府岬町へ向けたサイクリングロードの利用環境の整備についてどう考えるのか。

答 県の自転車利用推進策として、川、山、海のサイクリングロードの利用環境整備に取り組んでいます。「みなとオアシス」によるみなとまちづくりとの連携については、今後、海のルートとして調整を図れる部分があれば和歌山市や岬町とも連携していきます。

みなとオアシス...
人々のにぎわいや交流を創出する港の施設のうち、港を核とした地域活性化を促進するため、国土交通省が認定・登録を行った施設。

解説



問 最近、県内各地で貴重な郷の資源を磨く人がふえているが、みんながよって立つ地域学として「紀州学」の設立が必要ではないか。

答 本県には、全国的にも県民にも知られていない貴重な歴史、自然、人物などの資源がたくさんあります。それらについて「紀州学」として共通認識を持ち、その資源を活用することが大切であるとの提言ですが、貴重な資源を発掘し、磨き上げ、県民と共有しながら県外にも発信する機会を充実していきます。

紀州学の設立



文化

梅の世界農業遺産登録

問 南部郷の梅を「紀州・梅の香りと長寿の郷」として世界農業遺産への登録を提案するが、知事の決意はどうか。

答 みなべ・田辺地域を中心とする梅生産は、広大な梅林と周辺環境が織りなす四季折々の景観が素晴らしいこと、加工と一体となり地域の基幹産業であること、梅に関係した伝統ある祭事が数多くあることなど、登録要件を満たせるのではないかと思います。県としては、地元の皆様と一緒に登録実現に向けて取り組んでいきます。



福祉・医療

がん医療の充実

問 和歌山県がん対策推進条例施行後、施設の整備や情報収集、人材の育成など、がん医療の充実について、これまでの対策と今後の取組はどうか。

答 強度変調放射線治療対応型大学のリニアックを、県立医科大学附属病院、国立病院機構和歌山病院、新宮市立医療センターに整備しました。また、県立医科大学附属病院では、がん診療設備を充実させた新棟が本年度竣工予定で、4月にはがん看護専門の看護コースも開講されます。さらに、遺伝子解析による化学療法や免疫療法の研究にも取り組んでおり、今後も情報収集に努めながら、がん医療の充実に取り組みんでいきます。



B型肝炎被害者の掘り起こし

問 予防注射が原因でB型肝炎をを広げたことを国が認めた以上、一般的な検査の呼びかけだけでなく、「県民の友」などで被害者の掘り起こしをすべきではないのか。

答 県では、全国B型肝炎訴訟大阪弁護士会による県での相談会に職員を派遣し、県肝炎対策事業の説明を行っています。今後、ホームページや広報誌等を通じ、厚生労働省の相談窓口等の情報を提供していきます。

風しん感染対策

問 風しん予防のワクチン接種を周知し、補助制度を来年度も継続する必要があるが、平成25年の風しん感染やワクチン接種の状況、来年度に向けた対策はどうか。

答 平成25年は、9月19日以降の発生はなく、患者数は247名となっております。風しんワクチン接種緊急助成事業による接種者は10月末時点で5701名で、他府県より多くなっています。現在、対象年齢全員が接種できる予算を確保し、全市町村では個人負担なしで接種できる体制を整えたところであり、今年度中に速やかに接種してもらえよう積極的に啓発・広報等に取り組んでいきます。

労働

ブラック企業についての認識

問 若者を使い捨てる働かせ方が国会で問題になり、厚生労働省が無料相談を行ったところ、全国から1000件を超える相談が寄せられた。いわゆる「ブラック企業」に対する認識はどうか。

答 若者を使い捨てるにすぎないこと、労働や賃金不払い・残業などは、あつてはならないことです。本県労働委員会の個別相談は定評のあるところですが、よりアンテナを高くし、問題になりそうなことがあれば企業への注意喚起を行います。場合により労働基準監督署に情報提供も行うなど、若者が泣くようなことのないようにしていきたいと思っております。

防災

旧白浜空港跡地の活用策

問 現空港、旧空港跡地一帯を県、国の防災拠点として位置づけ、ソフト・ハード両面での整備を行うべきではないか。

答 旧白浜空港跡地には、白浜町の観光価値を高める集客力や地元雇用が見込める企業や施設を誘致したいと思っております。また、それまでの間は、広域防災拠点として現空港と一体活用していきたいと考えています。今後も、白浜町と連携を図りながら、紀南地域の発展につながるような誘致活動に積極的に取り組んでいきます。

殿山ダムの流量予測の見直し

問 殿山ダムの発電用水利権は平成26年7月に更新を迎えるが、日置川では約40年間に大きな洪水が2回も起きている。計画洪水の流量予測を見直すべきではないか。

答 殿山ダムの設計洪水流量は、昭和4年の既往最大水位記録と昭和14年から27年までの水位データ等を用い、その時点での最新の知見に基づいて算定しています。関西電力からは、設計洪水流量を超える程度の洪水に対し、堤体の安全性には問題がないとの報告を受けています。いずれにしても、県としては日置川の洪水対策について、堤防の築堤や、殿山

観光

紀北地域の観光施策

問 紀北地域には観光資源がたくさんあり、地域での周遊、滞在、そして消費を促すべきであるが、今後の紀北地域の観光施策をどう考えるのか。

答 紀北地域については、社寺を中心に周遊を促進する目



高野山町石道

的で、紀北地域12社寺、鉄道会社、県、関係市町村で協議会を組織し、3年前から「いのりとみのりの旅」として実施しています。県では、平成26年の世界遺産登録10周年を契機とした和歌山デザインেশョンキャンペーン、平成27年の高野山開創1200年を控え、この取組を軸に内容の充実を図り、紀北地域への誘客と滞在を促進していきます。

海上での津波発生時の情報伝達

問 操業中、漁業者は携帯電話を身につけていないことが多く、仮に身につけていても着信をチェックすることは不可能である。海上での情報伝達の現状と認識はどうか。



答 地震発生時の第一報として、携帯電話による緊急地震速報や緊急速報メールが最も迅速・確実な手段ですが、操業中の情報伝達には一定の制約があることは容易に想像できます。東南海・南海地震等による津波被害の軽減には確実な第一報の伝達が基本なので、そうした制約があることを踏まえ、対応策を考えていきます。



平成24年度決算議案を認定

決算特別委員会では、平成24年度一般会計決算(歳入額5869億余円、歳出額5778億余円)のほか、12特別会計の決算及び県立こころの医療センター事業など3事業会計に係る公営企業決算について、平成25年10月15日から18日まで及び12月3日に審査を行いました。

委員会の審査においては、ハイスクール強化校指定事業補助金の不適切な事務処理、鳥獣被害対策の研究結果と現場での活用、放置艇撤去の取組、緊急雇用創出事業の効果、県有施設・津波避難ビルの耐震化の状況などについて質疑があり、審査の結果、両議案とも認定すべきものと決しました。

12月18日には、本会議において、新島雄委員長から決算特別委員会における審査の経過・結果について報告を行い、採決の結果、両議案とも認定されました。



議会活動の紹介 Topics

議場に歌声響く

県議会で初の演奏会

平成27年に本県で開催する『紀の国わかやま国体』『紀の国わかやま大会』の気運を高めるとともに、「和歌山県民歌」のより一層の浸透を図るため、定例会開会日の12月3日、県議会議場で演奏会を行いました。

演奏会では、元タカラジェンヌで、りら創造芸術高等専修学校特別講師の^{あま}天翔りいらさんが国歌を独唱し、その後、紀の川市貴志川町で活動する「貴志川コーラス」と県職員やOBで構成された「男声合唱団ほえる」が県民歌と国体イメージソング「^{あした}明日へと」を披露しました。最後に、満員の傍聴席の皆さん、知事をはじめとする県職員、そして県議会議員全員での大合唱が議場に響き渡りました。



近畿6府県議員交流フォーラム

平成25年11月14日、近畿6府県議会の議員が地方議会や近畿圏の共通課題等について意見交換を行う「第10回近畿6府県議員交流フォーラム」が和歌山県議会で開催され、各府県から計41名の議員が参加しました。

午前の全体会議終了後、各議員が4つの分科会に分かれ、新川達郎 同志社大学大学院教授(地方自治分科会)、足立基浩 和歌山大学経済学部教授(地域振興分科会)、此松昌彦 和歌山大学教育学部教授(防災分科会)、上野雅巳 和歌山県立医科大学教授(医療分科会)のコーディネートのもと、活発な議論が行われました。

続いて、午後の全体会議において、各コーディネーターから分科会の報告がなされ、最後に来年度の開催県である滋賀県議会の宇賀議長から挨拶があり、フォーラムが締めくくられました。



関西広域連合議会11月臨時会開催

平成25年11月21日、関西広域連合議会11月臨時会がリーガロイヤルNCB(大阪市)で開催されました。本県議会からは、中村裕一議員、山下直也議員、多田純一議員、岸本健議員の4名が出席しました。

本会議においては、多田純一議員が4項目の一般質問を行い、「関西エネルギープラン(中間案)及び次期広域計画について」という項目では、再生可能エネルギーに係る目標設定への取組等について関西広域連合としてどのように考えるかただしたのに対し、嘉田委員(滋賀県知事)から、再生可能エネルギーにおける2020年度までの導入量目標を設定すること等の答弁がありました。



常任委員会活動レポート

総務委員会

総務委員会では、平成25年10月2日、秋葉山公園県民水泳場を訪問し、調査を行いました。

平成27年に本県で開催される紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の水泳競技の会場となるこの施設は、50メートルプール(国際公認)と25メートルプールが深さを変えられる可動床を備えた屋内の温水プールとなっており、いろいろな用途に対応できるプールであるとの説明を受けました。

また、国体開催に向け、選手の強化も着実に進めているとの説明を受け、天皇杯、皇后杯の獲得を目指してさらに取り組むよう、要望しました。



福祉環境委員会

福祉環境委員会では、平成25年10月8日、和歌山県立医科大学において、和歌山県地域医療支援センターの調査を行いました。

同センターは、県内の地域医療を充実させるため、和歌山県より委託を受け、平成23年4月に設置されました。

医師のキャリア形成のための研修プログラムの作成など活動内容について、板倉徹 理事長・学長、上野雅巳 センター長をはじめスタッフの皆さんから説明を受け、県内の地域医療の現状について意見交換を行いました。

平成26年には新たな医療支援システムの運用も始まるとの説明を受けて、今後とも地域医療の充実に尽力されるよう、要望しました。



文教委員会

文教委員会では、平成25年10月2日、紀北農芸高校において調査を行いました。

学校側より農業教育の現状や今後の目指す方向と将来の展望について説明を受けた後、粘り強く生徒の話を聞き、親身になって生徒に語りかける取組や「学び直し」によって基礎学力を身につけている取組について、また、生徒がつくった農産物の販売や農芸祭等について意見交換を行うとともに、今後とも農業教育を通して人材育成に尽力されるよう要望しました。その後、施設園芸棟の実習室等を調査しました。



県議会からのお知らせ Information



テレビ・ラジオ放送

定例会の質問と答弁の様子や委員会の審議状況、議案の審議結果などをお知らせしています。

テレビ テレビ和歌山(WTV)

県議会だより 開会、質問、閉会日の22時30分から25分間放送(2月定例会の放送予定 2/19、2/28、3/3~7、10、14)

県議会手話だより 閉会日の約1週間後に、22時30分から30分間放送

ラジオ 和歌山放送(WBS)

定例県議会ダイジェスト 開会、質問、閉会日の22時から15~30分間放送(2月定例会の放送予定 2/19、2/28、3/3~7、10、14)

県議会ホームページ

和歌山県議会



<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/200100/www/>



傍聴してみませんか

本会議は、申込みなしで傍聴できます。委員会の傍聴は、事前の申込みが必要です。

平成26年2月定例会 会期日程(予定)

本会議	2月19日(水)
本会議・常任委員会	2月21日(金)
本会議(質問)	2月28日(金)・3月3日(月)~6日(木)
予算特別委員会	3月7日(金)・10日(月)
常任委員会	3月11日(火)・12日(水)
本会議・予算特別委員会	3月13日(木)
本会議	3月14日(金)

※この日程は予定ですので、変更されることがあります。傍聴を希望される方は、開催日時等をお確かめください。

議員の動向

平木哲朗議員、岩田弘彦議員(ともに橋本市選挙区選出・自由民主党県議団)が、平成26年1月29日、辞職しました。